



1年 の ふくじゅう

1

1 の かん字の よみがなを かきましょ。

2 □に あつ かん字を かきましょ。

- | | |
|------------|------------|
| □① 大きな いえ | □② 四さつの 本 |
| □③ 十本の 木 | □④ 白い 犬 |
| □⑤ でん車に のる | □⑥ ハピキの あり |
| □⑦ 七つの ほし | □⑧ うまが 九とう |
| □⑨ やさしい 人 | □⑩ 五かいの へや |

- | | | | | |
|--------|-------|-------|--------|--------|
| □⑨ 小さな | □⑦ とり | □⑤ つち | □③ ゆう | □① ひろい |
| □⑩ ども | □⑧ あし | □⑥ ぶん | □④ め | □② そら |
| □⑨ おう | □⑩ を | □⑤ を | □③ め | □① を |
| □⑩ さま | □⑨ くむ | □④ よむ | □② さめる | □① のむ |

学しゅう日

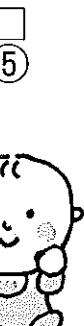
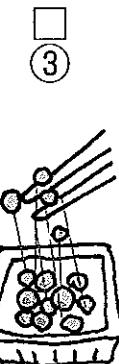
月

日

③ 「えを 聞い、ひらがなで 替えを かぎめつね。

④ 正しく かきかたを して いる 文字の ○を ひきめつね。

○



□ □ □

□ □ □

□ □ □

□ □ □

□ □ □

□ □ □

① アイおねいさん
② アイせんせえ
③ アイおとうさん
④ アイがっこおとおさん

① アイせんせい
② アイがっこう

⑤ 「は・を・へ」を つかいましょう。

① □に「わ」か「は」を かきましょ。

② □に「お」か「を」を かきましょ。

③ □に「え」か「へ」を かきましょ。

りがみ

る。

から

き

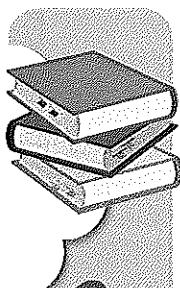
いくみち。

1年生の漢字

2

1 の 漢字の よみがなを かぎましよう。

2 □に あつ 漢字を かぎましよう。



- ⑨ 左 手
- ⑩ 一 円 玉
- ① 火 じが おこる
- ② 口 を あける
- ③ 金 よう 日
- ④ れんしゅう を 休 む
- ⑤ たかい 音
- ⑥ ひなが 生 まれる
- ⑦ 赤 い リボン
- ⑧ ねだんが 上 がる

| | | | | | | | | | |
|----------|----------|---------------|---------|---------|---------|---------|----------|--------|-----------|
| □⑨ | □⑦ | □⑤ | □③ | □① | □⑩ | □⑧ | □⑥ | □④ | □② |
| がつ こう | はや おき | そとへ で る | に すむ | い くつ | な まえ | みぎ の | おどこ と | い と | はな がさく |

学しゅう日

月

日

③ ひがの うじばを、かたかなで かやましょい。

□① てれび

□② じゃむ

□③ ちょおぐ

□④ ぱつと

□⑤ しゃわあ

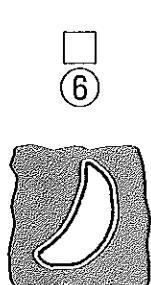
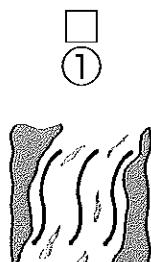
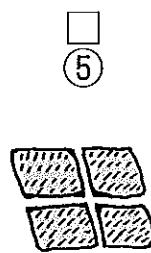
□⑥ じゅうす

□③ 九月九日

□② 八月八日

□① 七月七日

5 ひがの 田ん中の よみかたを かやましょい。



4 ①～⑥は、どんな かんせに なるでしょうか。かんがえて かやましょい。

5 ひがの うじばを、かたかなで かやましょい。

ふわふわのじゅう(1)

かん字を おぼえよう

●あたらしい かん字——かん字を れんしゅうしましよう。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|--------------|
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 読 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | よ・む |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 「本を 読む」 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | ゆき 「雪だるま」 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | い・う 「言いわけ」 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | い・く 「そとへ 行く」 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 一語 二語 三語 四語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 五語 六語 七語 八語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 九語 十語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 十一語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 十二語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 十三語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 十四語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 十五語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 十六語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 十七語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 十八語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 十九語 |
| 絵 | 書 | 南 | 行 | 雪 | 二十語 |

●読みかたが あたらしい かん字

——読みがなを 書きましよう。

① もの 音。 ② 読む ③ 音 読。

い れ ん し ゆ う し ょ う

——の 読みがなを 書きましよう。

□① 本を 読む □② 雪が のこる

□③ ごめんねと 言う □④ とおくへ 行く

□⑤ 南を むく □⑥ 字を 書く

□⑦ 絵を見る

○の いとばが 正しく つかわれて いる ほ
うこ、○をつけましょ。

ア あたたかな 日ざしを あびる。

イ おいしそうな けーきを あびる。

ア わいわいと みんなで ささやく。

イ ひそひそと 耳もとで ささやく。

ア にゅう学いわいに つくえを どける。

イ そうじの ために つくえを どける。

ア ぐつと 足を ふんばる。

イ そつと 手を ふんばる。

ア 文に あうよつけ、「 」に 「ひら」か 「まだ」

を 書きましょ。

たくさん 雪が のこつて いる。

すっかり 花は ちつた。

春なのに 春かぜが

こない。

○の いとばの じみと して、出で 置く、
○をつけましょ。

□① よが あける。

ア あさに なる。
イ よるに なる。

□② 竹やぶの そば。

ア だいぶ とおく。

イ すぐ ちかく。

□③ 竹やぶの かけ。

ア ものに かくれた ところ。

イ ものから はなれた ところ。

□④ うつかり ねぼうした。

ア あさに なかなか 目を さまらない こと。

イ よるに いつまでも ねない こと。

□⑤ みんなが こなくて こまる。

ア する ことが よく わかる。

イ どうして いいか わからない。

□⑥ すっかり はるに なつた。

ア ぜんぶ。まったく。

イ すこし。わずか。

□③

□②

□①

はる
春なのに

春かぜが

こない。

ふわのとく(2)

○ ひがの 文しおりを 読んで、下の もんだい

トたべよしょり。

あさの ひかりを あびて、竹やぶの 竹のはつぱが、

^①「さむかつたね。」

「うん、さむかつたね。」

と さややいて います。

雪が まだ すこし のこつて、⁵
あたりは しんと して います。
どこかで、小さな こえが しました。
「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」

竹やぶの そばの ふきのとうです。

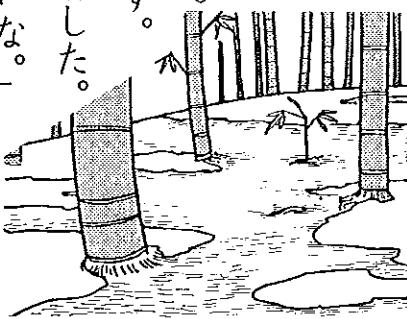
雪の 下に あたまを 出して、雪を どけようと、¹⁰

ふんばつて いる ところです。

「よいしょ、よいしょ。そとが 見たいな。」

「ごめんね。」

と、雪が 言いました。



□(1)

——①「『さむかつたね』『うん、さむかつたね』」
は、どんな ふうに はなして いますか。よい
ものに ○を つけましょう。

10

ア ひくい こえで、おこつたように。

イ かされた こえで、かなしそうに。

ウ 小さな こえで、ほつと したように。

□(2)

——②「雪を どけようと、ふんばつて いる」
と あります。が、ふんばつて いる ようすは、ふ
きのとうの どの ことばから わかりますか。文
しょうから 四字で 書きぬきましょう。

10

③

□(3)

——③と ④の 「ざんねんそう」 は、それ
ぞれ だれの ようですか。

1つ10でん
20

「わたしも、早くとけて水になり、とおへへ¹⁵」

行つてあそびたいけど。」

と、上を見上げます。

「竹やぶのかげになつて、

お日さまがあたらない。」

と⁽³⁾ざんねんそうです。

「すまない。」

と、竹やぶが言いました。

「わたしたちも、ゆれておどりたい。」

ゆれておどれば、雪に日があたる。」

と、上を見上げます。

「でも、はるかぜがまだこない。」

はるかぜがこないと、おどれない。」

と⁽⁴⁾ざんねんそうです。

空の上で、お日さまがわらいました。

「おや、はるかぜがねぼうしているな。竹やぶも⁽⁵⁾」

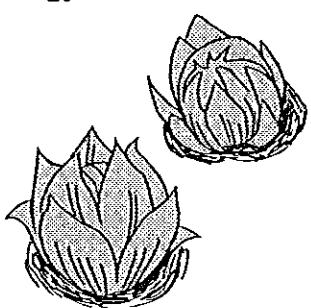
雪もふきのどうも、みんなこまつているな。」

そこで、南をむいて言いました。

「おうい、はるかぜ。おきなさい。」

(くどうなおこ)「ふきのどう」「より」

ア ものしづかな かんじ。
イ のんびりした かんじ。
ウ せつかちな かんじ。



竹やぶ

雪

□(4)

⑤「竹やぶも雪もふきのどうも、みんなこまつているな」とあります。みんなはどうしたいのですか。

一つひとつ

30

□(5)

お日さまは、竹やぶや雪やふきのどうのために、どうしましたか。

20

□(6)

このおはなしの「はるかぜ」は、どんなかんじがしますか。よいものに○をつけましょ

う。

10

図書館たんけん／春が いっぱい／きょうの できびと

かんけんを おぼえよう

●あたらしい かん字——かん字を れんしゅうしましょう。

図

と 「たくさんの中の 図書」
図 図 図 図 図 図

分

わ・ける わ・かれる わ・かる わ・かつ
わける わかれる わかる わかつ

方

かた 「やり方」
方 方 方 方

春

はる 「春休み」
春 春 春 春 春 春

思

おもう 「よいと 思う」
思 思 思 思 思 思

記

き 「日記を 書く」
記 記 記 記 記 記

曜

よう 「月曜日の あさ」
曜 曜 曜 曜 曜 曜

かんけんを おぼえよう

●あたらしい かん字——かん字を れんしゅうしましょう。

肉

にく 「肉を たべる」
肉 肉 肉 肉 肉 肉



●読み方が あたらしい かん字

——読みがなを 書きましょう。

① 書く
② 図書
③ 虫
④ こん虫

い れ ん し ゆ う し ょ う

——の 読みがなを 書きましょう。

- ③ かみの おり方
- ④ 春が いっぱい
- ① 図書館の 本
- ② なかま 分け

□⑤ 思い出す

□⑥ 日記を書く

○をつけましょ。
□① 本でしらべる。

ア わからないことをわかるようにする。

イ わからないことをそのままにする。

□⑦ 土曜日のあさ □⑧ ひき肉をかう

□⑨ のトトボが正しくつかわれているほ

うに、○をつけましょ。

□① ア どうくつをたんけんする。

□② イ アイスをおいしくたんけんする。

□③ ア 本のだいめいを読む。

□④ イ 空にだいめいがかがやく。

□⑤ ア ともだちといっしょにあるく。

□⑥ イ ひとりでいっしょにうたう。

□⑦ ア ぼくはおかあさんのおてつだいをした。

□⑧ ア やらなくともよいことをすること。
イ しごことなどをたすけること。

□⑨ ア 空がだんだんはれてきた。

□⑩ 文にあひがひに「なん」か「なに」

を書きましょ。

□⑪ ところに行きたいですか。

□⑫ をたべたいですか。

4 ーのトトボのじみとしげ、正しくつけましょ。

○をつけましょ。

□① 本でしらべる。

ア わからないことをわかるようにする。

イ わからないことをそのままにする。

□⑦ 土曜日のあさ □⑧ ひき肉をかう

□⑨ のトトボが正しくつかわれているほ

うに、○をつけましょ。

□① ア どうくつをたんけんする。

□② イ アイスをおいしくたんけんする。

□③ ア 本のだいめいを読む。

□④ イ 空にだいめいがかがやく。

□⑤ ア ともだちといっしょにあるく。

□⑥ イ ひとりでいっしょにうたう。

□⑦ ア ぼくはおかあさんのおてつだいをした。

□⑧ ア やらなくともよいことをすること。
イ しごことなどをたすけること。

□⑨ ア 空がだんだんはれてきた。

□⑩ 文にあひがひに「なん」か「なに」

を書きましょ。

□⑪ ところに行きたいですか。

□⑫ をたべたいですか。

ともだちを

やがそりいなばの

白いわや(1)

教科書 上 P. 34 ↓ P. 39
P. 144 ↓ P. 147

学習用

月

日

かん字を おぼえよ。

あたらしい かん字 —— かん字を れんしゅうしまよ。

1 —— の 読みがなを 書きましょ。

れんしゅうじよう

| | | |
|-----|------|----------|
| はなし | はなし | 「みんなで話す」 |
| 話 | 話 | 話 |
| きく | きこえる | 「ラジオを聞く」 |
| 聞 | 聞 | 聞 |
| 聞 | 聞 | 聞 |
| 聞 | 聞 | 聞 |
| 聞 | 聞 | 聞 |
| 聞 | 聞 | 聞 |

| | | |
|---|---|---|
| 話 | 話 | 話 |
| 聞 | 聞 | 聞 |
| 聞 | 聞 | 聞 |
| 聞 | 聞 | 聞 |
| 聞 | 聞 | 聞 |

読み方が あたらしい かん字

——読みがなを 書きましょ。

2 —— の ことばの じみと しんじ せじ ほひし、

○を つけましょ。

□① ともだちに 話す □② きちんと 聞く

□① おしゃせを 聞く。

ア じぶんの かんがえを おしゃせる こと。
イ つたえて しるよう にさせること。

□② 気を つける ことを 書く。

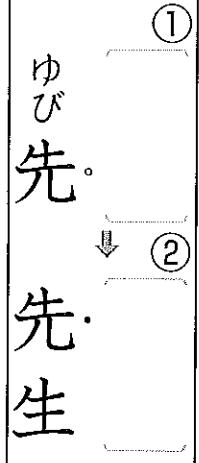
ア だれかに おしゃえる。

イ ちゅうする。

□③ やさいか くだものか くべつ できる。

ア ちがいなどで 分ける こと。

イ おなじ ものを あつめる こと。



読み方が あたらしい かん字

——読みがなを 書きましょ。

2 —— の ことばの じみと しんじ せじ ほひし、

○を つけましょ。

□① ともだちに 話す □② きちんと 聞く

□① おしゃせを 聞く。

ア じぶんの かんがえを おしゃせる こと。
イ つたえて しるよう にさせること。

□② 気を つける ことを 書く。

ア だれかに おしゃえる。

イ ちゅうする。

□③ やさいか くだものか くべつ できる。

ア ちがいなどで 分ける こと。

イ おなじ ものを あつめる こと。

③ —の「トビバ」が正しくつかわれてこのほ
うど、○をつかましよ。

□① ア リュックサックを せおう。

□② ア よるの 空に ほしが せおう。

□③ ア 王さまが くにを おさめる。

□④ ア 犬が こちらに むかって おさめる。

□⑤ ア とても いたくて かおを つめる。

□⑥ ア ふくろに 本を つめる。

④ □ に あう「トビバ」を □ から えりこ
で 書きましょ。

□① なかも

。

□② およいで むこうぎしに

。

□③ たがいに 力を

。

きそいあう わたる よびあつめる

⑤ 文にあつよひ、「 」に「やつて」か「と
りひが」を書きましょ。

□① はれて いた。

□② ゴーから 雨が ふりはじめた。

□③ 力を こめて はしつた。

ゴールが ちかづいた。

⑥ —の「トビバ」の いみと して、正しく まう
ど、○を つかましよ。

□① 白い ぼうしを かぶる。

ア セなかを おおう。

イ あたまを おおう。

□② だいじな ことを メモに とる。

ア 書く。

イ 読む。

□③ かかりの 人を 見つける。

ア ある じごとを うけもつこと。
イ なかの よい ともだち。

いなばの白うさぎ(2)

○ つぎの文しようを読んで、下のもんだいに
ト)たとえましょう。

うさぎは、なみだをぬぐって、話はじめました。

わたしは、おきのしまにすんでいました。け
たのみさきにわたつてみたかったのですが、お
よげません。^①よいほうはないかと⁵考えて、
海にいるわにのせなかを思いつきました。
そこで、わにに言いました。

「われわれうさぎと、きみたちわにさんと、どつ
ちが多いか少ないか、くらべてみないか。」

すると、わには、

「そりやいい。しかし、どうやるのかね。」

と、さきました。

「かんたんだよ。」

と、わたしは答へました。

10

□(1) ①「よいほうはありますか。どこへ
わたるためのよいほうですか。文しよう

から六字で書きぬきましょう。

□(2)

②「どうやるのかね」とありますか、わに
はどんなことについてたずねたのですか。
よいものに○をつけましょう。

□(3)

アうさぎとわにのどつちが多いか少ない
かをくらべること。

イうさぎがおよげるようになるには、どう
すればよいかとすること。

ウうさぎがわにのせなかにのるには、どう
すればよいかとすること。

「わにさんを ゼんぶ あつめて、けたのみさきま 15

で 一れつに つながつて おくれ。せなかの

上を、わたしが ぴょんぴょん とんで、数えよう。」

「なるほど、うやぎさんは かしこい。」

わには なかまを よびあつめると、けたの 方

ほ

へ 一れつに ならばせました。

わたしは、わにの 上を、一つ 二つと 数えな

がら、ぴょんぴょん とんで 行きました。そして、あと 一歩で きしに おりると いう とき、う

れしく なつて、つい、

③ 「きみたち、だまされたね。」

と 言つて しまつたのです。

その とたん、おこつた わにが、大きな 口を

あけて、かみつきました。あつと いう まに、毛け
は すっかり むしりとられ、わたしは 赤はだか
になつて いました。

そこに、かみさまが おおせい 通りかかつて、

しお水を あびて 風に 当たると よいと 言わ
れました。でも、よく なるどころか、いたくな
るばかりで、とても がまんが できません。

(なかがわ りえこ「いなばの 白うやぎ」より)

30

25

20

ように 言つて しまつたのは、なぜですか。つぎ
の () に あう ことばを 文しようから 書
きぬきましょう。

あと 一歩で きしに おりる ことが できる

ので、 なつたから。

□(4) ④ 「かみさまが おおせい 通りかかつて」

と あります。この かみさまたちは どんな
かみさまたちでしたか。よい ものに ○を つけ
ましょう。

ア こころの やさしい かみさまたち。

イ いじの わるい かみさまたち。

ウ ゆかいで たのしい かみさまたち。

□(5) うやぎは、いま どんな ようですか。よい
ものに ○を つけましょう。

ア ふわふわの 毛に つづまれて いる。

イ 赤はだかに なつて いる。

ウ 毛が すこし ぬけて いる。

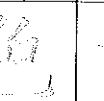
□/20

6

たんぽぽの ちえ(1)／じゅんじょ

● かん字を おぼえよう

● あたらしい かん字 — かん字を れんしゅうしましょう。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|--|
| 風 | 高 | 毛 | 太 | 黒 | 色 | 黄 |
| かぜ 「そよ風」 | たか 「たか・まるたか・める」 | け 「白い 毛糸」 | ふと 「ふと・い 「ねこが 太る」 | くろ 「くろ・い 「黒シャツ」 | いろ 「きれいな 水色」 | き 「黄色の 花」 |
| 風 風 風 風 風 風 風 | 高 高 高 高 高 高 高 | 毛 毛 毛 毛 毛 毛 毛 | 太 太 太 太 太 太 太 | 黒 黒 黒 黒 黒 黒 黒 | 色 色 色 色 色 色 色 | 黄 黄 黄 黄 黄 黄 黄 |
|  |  |  |  |  |  |  |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

□①

黄 色 い ぬの

□②

黒 い インク

れんしゅうじょ

――の 読みがなを 書きましょう。

① 気。 もち しめり 気。
 ②

――読みがなを 書きましょう。

多

多 多 多 多 多 多 多

晴

晴 晴 晴 晴 晴 晴 晴

生

生 生 生 生 生 生

教科書 上 P. 41 ↓ P. 51

月 日

④ — の 「」とばが 正しく つかわれて いる ほ

うに、○を つけましょ。

□③ 太 つた ねこ □④ 白い わた毛

□① ア 空の たいようが 水が たりなくて 花が しぶむ。

□② イ ぼくは やがて パンを たべない。

□③ オ 春が すぎて、やがて なつになる。

□④ カ たんぽぽが たねを ちらす。

□⑤ サ しめり気の 多い 雨が ちらす。

□⑥ ジ タンポポが たねを ちらす。

□⑦ キ タンポポが たねを ちらす。

□⑧ シ タンポポが たねを ちらす。

□① 文に あつよつに、() に 「ぐつたつと」か 「ふわふわと」を 書きましょ。

□① たくさん はしつて する。

□② たんぽぽの わた毛が とぶ。

□③ ふうせんが 空に 上がる。

③ つぎの () に 入る ことばを、() から えらんで 書きましょ。

□ たんぽぽの たねが 太る。

どんどん ぺんぺん わんわん

④ つぎの () の 「」とばの いみと して、正しい まつこ、○を つけましょ。

□ ① すっかり よるになつた。

□ ② ア ゼんぶ。まったく。 イ すこし。わずかに。

□ ③ つぎの 文かひ、一田の中で じかんが もつとも も はやい ものを えらんで、○を つけましょ。

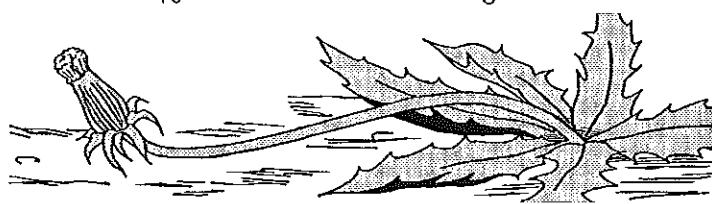
□ ④ ア よるなので、ねた。 イ ひるに ラーメンを たべた。

ウ あさ、目が さめた。

たんぽぽのちえ(2)

○ つぎの文しようを読んで、下のもんだいに
こたえましょう。

二、三日たつと、その花はし
ばんで、だんだん黒っぽい色に
かわっていきます。そうして、
^②たんぽぽの花のじくは、ぐつたり
とじめんにたおれてしまいます。



けれども、たんぽぽは、かれてしまったのではありません。花とじくをしづかに休ませて、たねに、たくさんのがいようとおこつて10いるのです。こうして、たんぽぽは、たねをどんどん太らせるのです。やがて、花はすっかりかれて、そのあとに、白いわた毛ができます。

このわた毛の一つ一つは、ひろがると、ちょ

(1) ①「その花」とありますか、なんの花ですか。

(2)

②「たんぽぽの花のじくは、ぐつたりとじめんにたおれてしまいます」とありますか、なぜたおれるのですか。つぎの()にあうことばを、文しようから書きぬきましょう。

1つ10でん
/20

(3) ③「わた毛」とありますか、わた毛にはなにがついているのですか。

花とじくをしづかに
たねにたくさんのがいと
おくつて、たねを太らせるため。
を

うどらつかさんのようになります。たんぽぽは、このわた毛についているたねを、ふわふわととばすのです。

④ このころになると、それまでたおれていた花のじくが、またおき上ります。そうして、せのびをするように、ぐんぐんのびていきます。

なぜ、こんなことをするのでしょうか。それは、せいを高くするほうが、わた毛に風がよくあたつて、たねをとおくまでとばすことができるからです。

(うえむらとしお「たんぽぽのちえ」より)



□(4) ④ 「このころ」とは、いつごろですか。よ

いものに○をつけましょう。

10

□(5) ア 花が黒っぽい色にかわったころ。

イ じくがぐつたりとたおれたころ。

10

□(5) 「たねをとおくまでとばす」ために、花のじくはどうなりますか。つぎの()

にあうことばを、文しようから書きぬきましょう。

一つひてん 20

これまでたおれていた花のじくが、また

ます。そして、

いきます。

□(6) この文しようにあるものに○をつけま

20

ア たんぽぽの花は、二、三日でかれてしま

う。

イ わた毛は、風にあたると大きくなる。

ウ たんぽぽは、たねをとおくまでとばすく

ふうをしている。

かんざつ名人に なろう // 同じ ぶぶんを もつ かん字の ひろば!

かん字を おぼえよう
あたらしい かん字 —— かん字を れんしゅうしましよう。

| | | | | | | |
|------------|--------------|---------------|---------------|-------------------|-------------|------------|
| 今 | 同 | 近 | 体 | 数 | 長 | 形 |
| いま 「今の 天気」 | おなじ 「同じ クラス」 | ちかい 「ゴールは 近い」 | からだ 「じょうぶな 体」 | かず 「かぞえる 数が すくない」 | ながい 「長い ひも」 | かたち 「山の 形」 |
| 今 | 同 | 近 | 体 | 数 | 長 | 形 |
| 今 | 同 | 近 | 体 | 数 | 長 | 形 |
| 今 | 同 | 近 | 体 | 数 | 長 | 形 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 妹 | 姉 | 店 | 内 | 切 | 刀 | 社 | 会 |
| 妹 | 姉 | 店 | 内 | 切 | 刀 | 社 | 会 |
| 妹 | 姉 | 店 | 内 | 切 | 刀 | 社 | 会 |
| 妹 | 姉 | 店 | 内 | 切 | 刀 | 社 | 会 |
| 妹 | 姉 | 店 | 内 | 切 | 刀 | 社 | 会 |
| 妹 | 姉 | 店 | 内 | 切 | 刀 | 社 | 会 |
| 妹 | 姉 | 店 | 内 | 切 | 刀 | 社 | 会 |
| 妹 | 姉 | 店 | 内 | 切 | 刀 | 社 | 会 |

| | | | |
|---|---|----|---|
| ④ | 名 | ふだ | ① |
| ⑤ | 人 | ごみ | ② |
| ⑥ | 名 | ふだ | ③ |

一年生 生 生

まれる きる

● 読み方が あたらしい かん字

——読みがなを 書きましょう。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 歩 | 回 | 海 | 汽 | 線 |
| 歩 | 回 | 海 | 汽 | 線 |
| 歩 | 回 | 海 | 汽 | 線 |
| 歩 | 回 | 海 | 汽 | 線 |
| 歩 | 回 | 海 | 汽 | 線 |

歩 歩 歩 歩 歩 歩 歩
回 回 回 回 回 回 回
海 海 海 海 海 海 海
汽 汽 汽 汽 汽 汽 汽
線 線 線 線 線 線 線

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑦ | や | り | 方 | 方 | こ | う | し | な | 数 | 数 | え | る |
| ⑧ | 下 | 下 | 下 | 下 | 下 | 下 | 下 | 下 | 下 | 下 | 下 | 下 |
| ⑨ | ⑪ | 小 | さ | い | 小 | さ | い | み | な | と | 町 | 町 |

やり 方 方 小 小 刀 みなと 町 町 内

● 一年生で ならった かん字

——つぎの 読みがなの かん字を 書きましょう。

| | | | | | |
|----|---|-----|----|---|---|
| □① | い | 空 | □② | ゆ | ひ |
| | が | しづむ | | | |



——の 読みがなを 書きましょう。

- ① 会社 で はたらく
- ② 大きな 店